

町民が誇れる
観光客が来たくなる
思いが交差する場所。

御座之湯

湯治広場



[地域住民・観光客の憩いの湯治広場] 浴衣姿で温泉街の風情を肌で感じてもらうための施設として、木回廊と石畳を敷いた棚田風の多目的広場「湯路広場」を設置。地域住民に活用される舞台は、同時に来場者にとって魅力ある空間となる。



3つの拠点。
再定義した
草津温泉を

[明治時代の趣を残す、草津温泉の新たなシンボル・御座之湯] 草津五湯の一つに数えられ「源頼朝」ともゆかりがあるとされ、江戸明治の趣を残すたずまいの共同湯「御座之湯」。屋根は板ぶきを用いて、温泉街の風情を演出。



[湯もみの伝統文化を時代に引き継ぐ熱乃湯] 大正時代に数多く建てられた和洋折衷の建築スタイル「擬洋風建築」をモチーフにデザインされた。1日6回の「湯もみと踊り」ショーが披露されるほか、体験もできる。落語などの会場としても活用され、多くの観光客でにぎわっている。



熱乃湯



再整備効果	入込客数*	約265万人 → 300万人超	熱乃湯利用者数*	約15万人 → 25万人超	テレビへの出演回数*	45回 → 95回
	浴場施設利用者数*	約42万人 → 60万人超	ふるさと納税額(平成28年)	約 14億円 (北関東1位)	主な受賞	・都市景観大賞(平成29年度) ・日本トイレ大賞(平成27年度)
	地域ブランド調査市町村ランキング*	全国60位 → 全国41位 (群馬県1位)	※いずれも平成22年度→平成27年度比較。			

草津町での事例は、草津町の中心市街地である温泉街全体を一つのエリアと捉えて、「地域や観光客にとって何が必要か」ということを具体化し再整備につなげたもの。6年余りのプロジェクトによって、さまざまな好材料が、まち全体にもたらされたと言えます。

中心市街地の再開発が町全体のプラスに

3つの拠点整備が完了後、周辺地域では積極的に店先の修景工事や街路灯照明の暖色化が実施され、官民が一体となった地道なまちづくり活動が進められることとなりました。これによって、温泉街全体の情緒や風情をさらに向上させることとなり、町民、観光客にとってより思い入れのある街並みに変わっていく循環が生まれています。

観光客を魅了する拠点の完成 地域ぐるみのまちづくりに発展

を敷いた棚田風の多目的広場「湯路広場」が平成26年に完成。翌年には、草津温泉の伝統文化「湯もみ」を伝承する施設「熱乃湯」が新しく生まれ変わり、湯畑広場を囲む街なみがよみがえりました。